



アジア太平洋ジオパークネットワーク（APGN）のシンポジウムに参加しました

前号では日本国内のジオパーク大会を紹介しましたが、世界でもジオパークの国際大会が頻繁に開催されており、世界ジオパークネットワーク（GGN）とアジア太平洋ジオパークネットワーク（APGN）のシンポジウムが交互に開催されます。2024年はAPGNが開催される年で、第8回大会が9月8～15日にベトナム北部のカオバン・ユネスコ世界ジオパークで開催されました（図1）。

今回のAPGNでは、9月8～11日にユネスコ世界ジオパーク認定・再認定の会議が併せて行われ、その結果が公表されました。今年7月に世界再認定審査を受けた山陰海岸ジオパークの審議も行われ、無事再認定されました。9月12、13、15日には世界各地のジオパークでの活動や研究についての発表が行われ、14日にカオバンのジオパークルートを回るツアーが開催されました。

APGNに参加して

私（小矢野）は、9月8日にベトナムのハノイ市にある国際空港に到着しましたが、ベトナム北部では数十年に1度の大型台風直撃で、街路樹が折れ、川は増水、所々で洪水があり、死者が何十名も出た大変な状況でした。空港から会場があるカオバン市へは約300kmの道を進むため、大会側が手配するシャトルバスで6時間ほどかかります。台風による大雨と洪水で危険ということで運転を見合わせ、カオバン市へ辿り着いたのは翌9日の夜でした。

10日に私たちは、会場となったカオバン市にあるコンベンションセンターに到着し、会議で山陰海岸ジオパークの再認定を決定した評議員にお礼を述べたり、各国のジオパーク関係者との情報交換や、開会式に参加しました。また、各国のジオパーク活動の近況報告の発表を聴講しました。

12日以降は台風による雨も落ち着き、各国のジオパークから来た、研究者、ガイド、自治体職員などによる発表を聞きました。発表内容は多岐に渡り、地質遺産やそこに棲む生物、看板のデザインの研究、ガイド手法、まだ認定されていないジオパークの活動、ジオパーク間の連携事業、各国・各地のジオパークの運営体制の紹介など様々でした。私は海岸生物相の研究に関する発表を行い、海に面したジオパーク関係者が興味深く聞いていました。



図1. ベトナム北部のカオバン・ユネスコ世界ジオパークの位置（赤線内）。赤い点はベトナム国内に3地域あるユネスコ世界ジオパーク。グーグルマップを用いて作成。



図2. APGNの大会の様子。A：カオバンコンベンションセンター、B：開会式の様子、大きな会議室がいくつもあり、それぞれの部屋で会議や発表が行われた。C：ジオパークフェアにて、D：コンサート会場のような夕食会

また、会場の周りで「ジオパークフェア」が開催され、各国・各地域のジオパークがブースを出展し、カオバンの高校生ボランティアなどが民俗芸能を披露し、祭りのような雰囲気でした。日本ジオパークネットワークからもブースを出展し、日本の各地域のジオパーク参加者が持ち回りで出展の運営に携わりました。ブースには、高校生ボランティアや参加者が絶え間なく訪ねて来て、とても忙しくも楽しいひと時でした。今回の APGN では日本のジオパークから 50 名ほどが参加していました。

大会期間中の昼食・夕食は大会側が全て準備しており、特に Gala dinner と呼ばれる懇親会のような夕食会や大会終わりの夕食では、ベトナムの伝統的料理や、プロによる司会とプロが演奏する音楽会場があり、まるでコンサート会場のような様子でした。

カオバン・ユネスコ世界ジオパーク

ベトナムではユネスコ世界ジオパークが3ヶ所あり、会場となったカオバンのジオパークは 2018 年に世界認定されました。

カオバン市を中心に東西南北の4つのモデルルートが走り、そのルート周辺に様々なサイトがあります。カオバン一帯は、日本の山口県秋吉台のような石灰岩の大地（カルスト地形）ですが、秋吉台よりも侵食が進んでおり、無数にそびえ立つ石灰岩の山に多くの谷や平野部がある地形になっています。美しい棚田が谷や平野部を覆い、多くの少数民族と、民族によって異なる刺繍民芸品が特徴です。

APGN 大会の 14 日のツアーでは、東西南北4ルートあるうち、西と東の2ルートを手に分かれてサイトを巡回する予定でした。私は当初、サンゴなどの化石が多い西ルートを選択しましたが、台風の影響で北ルートに変更となりました。

北ルートでは歴史的なサイトが多く、ベトナムが中国の一部だった頃の寺院や、ベトナム建国の父であるホーチミンが隠遁生活をしながら機密文書を書いた石灰岩の洞窟などが印象的でした。ベトナム戦争では、ベトナム兵が無数の石灰岩の山、洞窟が多い地形に潜伏していたそうです。歴史と地質が深く関わっていることが垣間見られるルートでした。

東ルートでは、カオバンのジオパークの代表的な地質的なサイトである「エンジェル・アイ」や「バンソックの滝」があり、多くの参加者がこのルートを選択していました。エンジェル・アイは、石灰岩の山に大きな風穴がある奇妙な地形で、これは昔、石灰岩地形の地下に鍾乳洞が形成され、周囲が侵食して山ができ、かつ隆起してこのような地形になったと考えられています。バンソックの滝は世界 4 位の大きさで、すぐ対岸が中国になっています。

APGN と世界のジオパークについては、当館の「トピックス&ニュース」でも紹介します。(小矢野)



図3. カオバンのカルスト地形と棚田



図4. カオバン・ユネスコ世界ジオパークのサイト。A: 中国統治時代の寺院、B: ホーチミンが隠遁生活をしてきた鍾乳洞、C: エンジェル・アイ、D: バンソックの滝。CとDの写真はGGNのホームページより。